

## 研修医教育（平成 25 年度）

H25 年度は研修医 29 名（←H24 年 18 名←H23 年 21 名）、1 年次 23 名（←14 名←20 名）、2 年次 6 名（←4 名←1 名）と、過去 3 年で最多の研修医が消化器内科にて研修を行った。

H24 年度から、内視鏡・エコー検査特化コース（2 年次対象）を設立したが、H25 年度も 2 名が 1 ヶ月ずつ研修し、うち 1 名の中尾康彦先生は鬼のように検査をこなし入局を決めてくれた。

各研修医の担当症例としては、管班、肝班ともに化学療法班症例も経験するようにした。期間中の担当患者人数は、研修医の状況に併せて増減した。

また、プレゼンテーション教育も継続している。研修期間中に経験した 1 症例を、医局内にて学会発表形式で発表会を行っている。主にそれらの発表のなかから学会演題として発表し、地方会参加につながった。九州支部例会において 9 演題（6 月：3 題、11 月：6 題）の発表を行った。とくに 11 月の地方会では大園恵介先生（庄司寛之指導医）が、みごと研修医優秀演題賞を獲得し、H26 年度消化器内視鏡学会総会に招待された。当時 2 年目研修医は 4 名が発表を行ったが、うち 2 名が入局してくれた。



〈内視鏡指導風景〉



〈指導医頑張ろうの団結図〉

H25 年度は、H17 年卒の指導医が主軸となり、各々の自由な指導スタイルで賑やかに研修医を引っ張っていただいた。

2 年目研修医たちは、各研修病院先で同門の先生方より熱い指導を受けた。大学と違う環境のなかで嬉々として診療をしている、と報告してくれる姿が印象のこる。研修医時代に ESD を

完遂するところまで達した研修医もいた（岡村貞真先生：佐世保市立総合病院）。

関連病院の同門の先生方へは、この場を借りて、日頃のご指導へ感謝申し上げます。これまで同様、ご協力のほどよろしくお願い致します。

これらの指導が身を結び、H26年度は総勢12名が入局を表明してくれた（新3年目10名）。H24年度同様に、人数の多い利点を生かし、修練先は大学病院のみでなく、各自の希望を重視して元の研修病院や「総合内科」として修練をスタートし、即戦力として働いてくれている。新3年目入局以外には、本田先生・末廣先生というおふたりの強力メンバーをお迎えし、はやくもスーパー指導医として尽力していただいている。

H26年度は医局体制をまとめていただいた大仁田先生の医局長交代があり、さらには学生から研修医にわたり長年総括的立場であった市川先生が異動される、という状況でスタートした。先生方が構築されてきた指導体制を、若い教員陣もなんとか見習って継続していきたい。



恒例の気合注入（大仁田先生）



研修医への溢れる愛情（市川先生）